

聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で（ヨシエル）」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇119：7、エペソ人6：5「真心から」、マタイ13：44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

→ 5 神の預言の確かさ

終末論

—その2—

終末論の七つの論点

1. 主の再臨、キリスト者の携挙 テサロニケ人第一4：13-18、コリント人第一15：50-52
2. 大艱難 マタイ24：15-22、マルコ13章（ルカ21章）
「不法の人」の出現は「主の日」の現れの必要条件 テサロニケ人第二2：8
キリストご自身、予告、警告された
3. 千年支配
ほとんどの教派の見解は、オリゲンの影響からアウグスティヌスが唱えた「無千年期説」
この見解、「寓意的解釈」に依存
4. 「置換神学」
過去：聖アウグスティヌスからアウシュビッツに導かれた、反ユダヤ主義による虐待の歴史
現在：この動きが復興
⇒「ハルマゲドン」でクライマックスに至る
5. 「ダビデ契約」
3. の「寓意的解釈」と、4. の「置換神学」、ダビデ契約を無視した結果導かれた
非聖書の見解
ヘブル語聖書に記された四つの無条件契約
①アブラハム契約 創世記12：2-3
②地の契約 創世記15、17章
③ダビデ契約 サムエル記第二7章、イザヤ書9：6-7ほか
④永久の契約、「新約」 エレミヤ書31：31ff.
⇒聖書は新・旧約とも、文字通り捉えられるべき
→マタイ5：18
キリスト、御言葉を文字通り捉えるべきことを強調
6. 相続と報酬
「天ではすべての者が平等」
この考えは、キリストが語られた多くのたとえとは対照をなす見解
すべてのキリスト者は御国に入り、永久の生命に与る相続を共有
報酬は各自違い、地上での主への忠誠と隣人への奉仕によって評価される
7. 救いと真のキリスト者
「救い」に、個々人の行為が加味されるだろうか

真のキリスト者の認識

☆現在は「完全な御国に至る備えの時代」で、来るべき「キリストの千年支配」、
「御国の相続」を待っている

☆そこ「神の御許での自分たちの責任と権威」が、ここ「地上での忠誠と従順」から
導かれると信じている

聖書

- ☆現在の献身は、御国で褒賞^{ほうしょう}、報酬を得るための喜びで動機づけられる！ ヘブル人12：2
- ☆キリスト者は、
 - ①「信仰義認」（過去時制、キリストの十字架によって百パーセント達成された）と
 - ②「聖化」（現在時制、現在も継続、進行中の働き）とが明確に区別されることを認識
- ☆この世でキリストのしもべとして「実を实らせること」が、キリスト者にとって、現在の主要な課題

千年期に関する諸説			
説	前千年期説	後千年期説	無千年期説
キリストの支配場所	地上	地上	天上
千年支配の時期	キリスト再臨後 千年間	キリスト再臨前 千年間	キリストの初臨と再臨 との間の年月 (二千年+α年)
サタンが縛られる 時期	未来 キリスト再臨直後、 千年期が始まる直前 御使いによって	現在 教会によって	過去 キリストによって
第一と第二の復活	両方とも身体の復活 † 第一の復活に 与るのは幸いな者たち † 残りの者はすべて 第二の復活に与る	両方とも身体の復活 † 第一の復活に 与るのはキリスト † 第二の復活に 与るのはキリスト者	† 第一は霊への復活 † 第二は身体の復活 対象は両方とも キリスト者
キリストとともに 支配する者たち	勝利を得た者 (克服者、殉教者)	生きている信者	「死んだ」信者

寓意的解釈

☆ヒッポのアウグスティヌス—354年11月13日、アルジェリアで生誕—、聖書の寓意化を導入
 ＊聖書の霊化（精神的意味づけをすること）による聖書解釈

☆その一例：エゼキエル書44：2の解釈

＊アウグスティヌス、キリストの両親マリヤとヨセフが身体の交わりのない結婚生活を送った
 ことの証拠の聖句とみなした

「主が入られたことによって閉じられた門」を、マリヤの終生の処女性の「ひな型」と解釈

†『だれもここから入ってはならない』を、ヨセフがマリヤを知ってはならないの意と解釈

†『これは閉じたままにしておかなければならない』を、マリヤが主を受胎する前も受胎した
 後も処女であったと解釈

→マタイ1：25 マリヤとヨセフ、キリストご降誕後、通常^{こども}の結婚生活に入り、子宝に恵まれた

エゼキエル書44：2の自然な解釈

＊再臨のキリスト、明確にエルサレムにて、イスラエルへの約束を物理的、地上的に成就される
 マタイ23：39

エルサレムの東門

＊歴史的に、エルサレムの東門は閉じられてきた

オスマントルコのスレイマン一世、東門を囲い、1541年来、今日に至るまで閉鎖

＊今日、エゼキエル書44：2は成就

⇒エルサレムの東門、人がどんな工作を施し、主の入城^{とど}を止めようとしても、
 再臨の主によって開けられるであろう

聖書

→ 6 究極的に立証される神のすべての言葉

「ゴグ・マゴグの戦い」

- ★ 今日、この戦いが始まる前提条件の大部分はすでに実現
⇒ エゼキエル書36、37章の預言の大部分は成就
- ★ 「**終わりの日**」 (38 : 16) に起こる
ヘブル語のこの用語、「遠未来に」、あるいは、「来るべき時代に」の意でもある
- ★ 「キリストの再臨に至るまでの不確定の時期、時代、期間」の意
- ★ この戦いは、艱難期の間には始まらないと思われる
敵の後始末に追われるイスラエルが、同時進行で、反キリストの体制下で隷属状態に置かれることは考えられない
艱難期の七年間に、この「ゴグ・マゴグの戦い」の結果の後始末の七年間が重なることはあり得ない
- ★ 「**ゴグ**」は「**マゴグの地**」 (38 : 2)、ヨセファスによれば、スキタイ人、一中東から北に移住し、黒海とカスピ海の北に定住した民で、その地は今日のロシア、旧ソビエト連邦の領土—の地の民
- ★ 地理的に、イスラエルの北の果ては、ロシア
- ★ 同盟国五ヶ国の名は、—ペルシャ、クシュ、プテ、ゴメル、ベテ・トガルマ—
同盟国の筆頭はイラン
- ★ 「**クシュ**」 (38 : 5) は今日のスーダン/エチオピア、「**プテ**」は今日のリビア/アルジェリア
- ★ 「**ゴメル**」 (38 : 6) はトルコ
数年前から、トルコ、ロシア、イラン寄り
- ★ 「**ベテ・トガルマ**」 (38 : 6) は、トルコ語を話す民
⇒ エゼキエル言及の諸国民のほとんどすべては、今日、イスラム教徒が大多数を占める国々
- ★ 38 : 8の適用性
 - ☆ イスラエル国家誕生以来六十七年間、民が一番繁栄、安心して住んでいるのは今日
 - ☆ イスラエル国防軍 (IDF) は、中東で最強
 - ☆ イスラエル空軍は、領空を占有
 - ☆ 今日イスラエルの民、非常に効果的な防空システムで守られている
 - ☆ 防衛施設、防衛手段として、潜水艦、弾道弾、最上級の諜報機関が完備
 - ☆ 核保持に関してはイスラエル、「戦略的あいまいさ」の政策を採用、しかし、
防御用核兵器所有は間違いないと広く信じられている
- ★ 今日、イスラエルは国際的に孤立化の傾向

ゴグとの同盟に加わらない国々

エゼキエル書38 : 13

「**シェバ**」 : 今日サウジアラビア「**デダン**」 : 今日のペルシャ湾沿岸のアラブ首長国連邦からクウェートまでの国々、連邦「**タルシシュ**」 : スペイン、あるいは、英国に至るまでの遠い国「**そのすべての若い獅子たち**」 (下線付加) : 西欧の政治的、経済的、商業的勢力

⇒ サウジアラビア、ペルシャ湾岸諸国、ヨーロッパ、米国は、略奪目的の侵略に賛同せず、ロシア、イランの反イスラエル同盟に加わらないことを示唆

聖書

「ゴグ・マゴグの戦い」の進展

- ★敵軍がイスラエルの地を攻めるとき、神がご介入、世界的な大地震が起こる
- ★剣での同士打ちが展開される
- ★疫病、流血沙汰、豪雨、雹、火、硫黄が下る
- ★一連の天災、人災は神が起こされる
 - ⇒ 神の御旨、ご自分の選びの民イスラエルと全諸国民すべてが真の神を知ること
- ★野の鳥、野の獣、死体の後始末を七ヶ月で終えることに貢献
 - ⇒ 神に反逆する罪の結果の恐ろしさ
 - 神の民イスラエルを敵にする者に、厳しい裁きが下る

恐ろしい裁きとその結果

- ★ 39 : 21の神の言明
 - 衛星テレビ放送で、神が中東で起こされる奇蹟、預言の成就を、世界中の諸国民が同時に「見る」ことができる時代を予兆

⇒ この戦いの結果、この世の多くの者、キリスト信仰に生きようになるに違いない
ユダヤ人の多くがキリストをメシヤとして受け入れ、イスラエル、ユダヤ人の世俗主義は
終りを告げるであろう

→ 39 : 25-29

黙示録の「ゴグ・マゴグの戦い」

黙示録20 : 7-10は、別の「ゴグ・マゴグの戦い」

1. イスラエル国家復興と四散した地からのユダヤ人再集合の比較的直ぐ後に起こる
2. 「地の四方にある諸国の民」がイスラエルの民、都エルサレム攻撃に参戦
3. 黙示録の戦いの後、文字通り、直ちに世の終わりが到来
 - 現存の天と地は崩壊する
 - サタンに加担した地の住民、第二の復活に与った者たちとともにみな裁かれ、サタンと墮天使、悪霊とともに「火の池」に入れられる
 - 新しい天と地に新しい都エルサレムが下ってきて、キリストに従う者たちはみな、この新しい都に永久に、神とともに住むことになる

今日の中東情勢

1. ロシアとイラン、軍事協定を結び、イスラエルの安全を脅かしている
2. イスラエルの地に、巨大な埋蔵量の原油が発見された
イスラエルのゴラン高原に莫大なシェール油田、存在
 - ⇒ 「ゴグ・マゴグの戦い」の目的は、略奪 → 38 : 12
3. イスラム教徒の間で、終末論への関心が高まっている
 - * 狂信的末日イスラム教徒のほうが過激派、急進的イスラム教徒より、イスラエルや世界各国にとって脅威
 - * ISISとイランの指導者たちはシーア派、スンニ派の中の熱狂的終末論者
 - * ISISとイランの指導者たち、大量虐殺、狂信的末日思想へと導かれている
「世の終わりが来た」、「イスラム教のメシヤ、モディが現れ、全世界を支配する」と彼らは信じている
 - * 彼らにとって、ユダヤ人やクリスチャンを撲滅することが、世界的なイスラム王国の到来、樹立、あるいは、「カリフ制」の樹立を早めることになる
 - * 撲滅のためには、自爆テロ、化学、生物、核兵器であれ、手段を選ばない